

芦屋大学論叢 第73号
(令和2年9月16日)抜刷

《実践報告》

「特別の教科 道徳」の実践的指導力育成について

木 村 重 房

《実践報告》

「特別の教科 道徳」の実践的指導力育成について

木村重房

1. はじめに

本実践報告は、2019年4月6日（土）から2019年8月3日（土）に実施した芦屋大学「道徳教育の指導法【中等】」土曜3限（13時40分から15時20分）、受講登録84名、全15回の授業内容等を報告する。

(1) 授業のすすめ方について

授業は「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 平成29年7月 文部科学省」（17頁から18頁）を授業での指導の中心として行った。具体的には「生徒が人間としての生き方について考えを深められるように様々な指導方法の工夫をしていく必要がある。」ことを、具体的な例を示しながらすすめた。

その上で、「それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。」こと、「道徳的価値の大切さを感じ取り、人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情は道徳的行為への動機として強く作用するものである。」こと、そして「道徳的価値を実現しようとする意志が働くことで道徳的態度はそれらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構えとなる。」ことを強調した。

(2) 最終回授業での学生の「授業全体を通して」の学生からのふりかえり抜粋

①この授業で一番、自分が学べたと思うことは、模擬授業です。自分はこの授業を受講して初めて人前で授業をさせていただきました。いつも授業は聞いている立場で「先生がどんな気持ちで授業しているのか」を知らず受講していましたが、実際に授業してみると、とても緊張するし、考えていたことがみんなの前に立つと頭の中が真っ白になってしまいました。それに自分が伝えたいことを生徒に正確に伝えるのはとても難しいと改めて実感しました。そして、先生の大変さがよくわかりました。他にも授業で毎回資料を読んでいく中で、先生の自分達への問いかけの仕方など、考えさせられるものがたくさんあり、勉強になりました。この授業で、これから教員になる上で、必要なことや大切なことを多く学ぶことができたと思いました。

②この授業では、教員になって必要な能力である話す力や、自分自身で指導案を考えたりする等、教員として必要なことを身につける授業だったと思います。この授業で一番成長できたのは、教員としてのコミュニケーション力だと感じています。他の授業では、ずっと文字を書き私語は一切せずに取組みます。ですが、教員として必要なことの一番はコミュニケーション力だと思います。それは教員だけでなく、社会に出ても必要です。その力がこの授業では身につきました。他にも、急に交通事故で障がい者となったサッカーの選手の話や、いじめの話、たばこのポイ捨てでの友達の発言に心を痛める人の話などの教材にも取組み、これからの自分の人生を見直すことができました。指導案を作成することも難しかったですが、勉強になりました。この体験をこれからいかしていきます。ありがとうございました。

(3) 毎授業での導入について

授業の1回目の導入では、ペア・コミュニケーション等のアクティビティを行って、学生のコミュニケーション力を評価した。しかし、私が求めている「教員として求められるコミュニケーション力」に達していなかった。そのため、2回目から6回目までの授業の冒頭にコミュニケーショントレーニングを行

い、その内容を徐々に応用的・発展的になるよう工夫を凝らした。トレーニングのアクティビティを最初は1対1で丁寧に行い、ペアでの活動が成熟したと判断した段階で、徐々に人数を増やし3~4人での授業体験に発展させ、1人で複数の者に授業を行う力を養った。

(4) 模擬授業体験での興味関心を高めるための導入アクティビティ等について

道徳科授業を行う際の導入は、筆者が7回目以後、内容にそった異なる方法で紹介し、授業を行う模範を示した。その後、模擬授業を行った。授業は教員役1名対生徒役1名からはじめ、徐々に生徒役数を増やして実施した。

2. 目的

授業「道徳教育の指導法」は、教員を志望する学生が生徒の「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育成する授業方法を修得することをめざして行った。授業では、教員役と生徒役に分かれて行き、「ふりかえり」を実施した。ふりかえりを重要視することは「ふりかえりは学びの宝庫」という文言を使い事前に周知した。ふりかえりで明らかになった課題を、次の授業で解決することにも努めた。その過程で、教員として課題を自ら見つけ、自ら解決する実践的資質の育成に取組んだ。この取組過程・内容を明らかにし、授業改善に役立たせることを目的とする。

3. 方法

最後の記名式自由記載での感想等を用いた。ただし、15回目は小論文テストを実施したため、記名式自由記載での感想等は行っていない。感想等はB6版ノートを配布し、毎時間、第1回目授業から第14回目までの全14回、提出を求めた。次の授業時に、集計した結果をプリントに示し学生に周知した。

4. 授業内容とふりかえりの抜粋（自由記載）

4-1 第1回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年4月6日（土）3限（13:50~15:20）

(2) 内容

- ①毎回授業で「ふりかえりノート」として使用するB6版ノート配布
- ②ペア・コミュニケーション
- ③授業担当者木村の自己紹介
- ④教師に必要なコミュニケーション・スキルの説明
- ⑤言語活動を授業で実施することを周知
- ⑥道徳教育のねらいと位置づけ、道徳とは何か、道徳教育の定義について講義

(3) ふりかえりの抜粋

- ①コミュニケーションの大切さを改めて理解することができた。1対1を恥ずかしく思うのは卒業しなけ

ればなりません。相手の気持ちや特性を考えて、より良い人間関係を作っていきたいです。人の気持ちは言葉にして伝えなければうまく伝わりません。相手の気持ちをうまく汲み取れる人間になりたいです。この授業でその力を身につけるよう努力したい。

- ②今日は自己紹介を通して様々なことを実感しました。まだ少し恥ずかしかったり、知ってる人と知らない人とで話の内容が違うなと思いました。そこでも相手に合わせて会話ができるようにしていきたいと思いました。もっと力をつけていろんな人との輪を広げていきたいです。

4-2 第2回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年4月13日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②生きる力とは
- ③ペア・コミュニケーション
- ④アクティブ・ラーニング（ラーニング・ピラミッドから）説明
- ⑤道徳教育を指導する際の「基本的な考え方」説明
 - 1) 良好なコミュニケーションとエンパワメント
 - 2) 「豊かな心」育成の中心的な役割を担う「道徳教育」
- ⑥道徳性の発達、道徳と教育、社会規範について講義

(3) ふりかえりの抜粋

- ①心を温かいと冷たいの温度で表現することは、納得しました。ペア・コミュニケーションでは、知らない人にいかに自分をアピールする力が試されているなと思いました。「ほめ言葉のシャワー」はすごくいいアクティビティだと感じました。それを通して思うことをきちんと相手に伝え、良いところを見つけることが大切なんだな、と気づかされました。ペア・コミュニケーションは大切なトレーニングだと痛感しました。
- ②今日、普段から喋る人や大学で見たことのある人、初めて会う人といろいろな人と自己紹介をして思ったことは、自分で自分のことを詳しく話すことが思っていたよりできなかったと思いました。自分は、自分ではよくしゃべるし、話すのも好きだと思っていたけれど、初めてしゃべる人には何を話せばいいかわからなかったし、何を尋ねればいいのか、わからなかったです。これからは話す力や聞く力、コミュニケーション力を伸ばしていきたいと思いました。早く自分の特徴を見つけたいです。

4-3 第3回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年4月27日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ペア・コミュニケーション
- ②教員の仕事とは・教科等の指導以外の指導を説明
- ③教員の「仕事の魅力」について考える
- ④生きる力と道徳教育を講義
- ⑤ゲストとして4年生を呼び話を聞く（コミュニケーショントレーニングの成果の共有モデルを提示）
- ⑥修身科と大正新教育運動、戦後教育改革と道徳教育と道徳の授業を講義

(3) ふりかえりの抜粋

- ①今日は自己紹介をしてみて、自分は人見知りをしていろいろな人としゃべれるような人間ではないけれど、話してみると意外と話が盛り上がって楽しかったです。実際に教育実習に行く4回生の話を聞いていると言葉をハキハキと話していてとても聞き取りやすかったです。自分も教育実習に行くことになったら、ハキハキと言葉をしゃべらないといけないので、今のうちに慣れていけたらいいな、と思っています。頑張ります。
- ②4回生の先輩の話を聞いて本当にすごいなあと思いました。相手に興味をわかすようなつかみから、説得力のある内容で聞き入ってしまいました。このようになりたいなと思ったので、教員になるにはこのレベルまで話せるようになりたいです。共通しているのは、堂々としていて意思表示がはっきりしているのよい見本となりました。教員をめざすには、自分のスキルをアップしないといけないと痛感しました。

4-4 第4回道徳教育の指導法

(1) 日時 2019年5月11日(土)3限(13:50~15:20)

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②ペア・コミュニケーション
- ③開いた質問で深める練習No.1
- ④小白板を使ってプレゼンテーション「育成したい生徒像」
- ⑤道徳性の発達について講義
- ⑥道徳教育資料「もう一つのゴールネットー京谷和幸」を使って模範授業
- ⑦ふりかえり
- ⑧ふりかえりノート提出

(3) ふりかえりの抜粋

- ①今回の授業で道徳の本質的な意味や授業の仕方や道徳に必要なものを学んだ。私は道徳を簡単に考えていたので、もっとしっかり考えながらこの授業に臨まないといけないと思った。話をきくことは本当に大切だと改めて実感した。
- ②本日の授業では「特別の教科道徳」がスタートすることもあり、自分たちも今後、授業をちゃんと受講しないといけないなあと改めて痛感しました。本日のプリントで京谷さんの話を初めて知りました。高校の頃は、3試合連続でハットトリックするなど、すごい選手だったけど、プロで活躍したのは半年間で、1年目の11月には事故を起こしてサッカーができなくなり車いすバスケットに転向し、努力し続けたことに心が打たれました。もし、自分がこんなことになったら、もうスポーツはしないとします。これからは京谷さんを見習って生きていきたいと思います。

4-5 第5回道徳教育の指導法

(1) 日時:2019年5月18日(土)3限(13:50~15:20)

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②ペア・コミュニケーション

- ③開いた質問で深める練習No.2
- ④「教師力とは」について考える
- ⑤道徳教育の目標・中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」について講義
- ⑥道徳教育資料「まじめ」を使って学生間で模擬授業体験
- ⑦ふりかえり
- ⑧ふりかえりノート提出

(3) ふりかえりの抜粋

- ①自分たち4人グループで「まじめ」というテーマで模擬授業をしました。その中で人とのコミュニケーションは大切だと感じました。自分は真面目過ぎで、一人で悩んでしまってストレスを抱え込んでしまうので、まじめ過ぎるのもいけないと思いました。たばこのポイ捨ては歩いている人にも気分を悪くさせてしまうし、自然環境にも悪いので、やめた方がいいと感じました。自分もポイ捨てしたことがあるので、これからは気をつけます。
- ②マナーは罰則がない法律だと思いました。自分がこうやるから正しいと自分だけにならず、人の言っていることや、やっていることを少しは聞き入れることも大切なことだと思えたので、これからは少しでもやっつけようと思いました。

4-6 第6回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年5月25日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②ペア・コミュニケーション
- ③開いた質問で深める練習No.3と閉じた質問
- ④大白板を活用した話合いの方法を体験
- ⑤道徳教育を進める上での留意点について講義
- ⑥道徳教育資料「私を育てた部活動」を学生間で模擬授業
- ⑦ふりかえり
- ⑧ふりかえりノート提出

(3) ふりかえりの抜粋

- ①自分で初めて授業で何をするかを考え、それを授業した。教員になってからやることの大変さを知った。これから教育実習等で行き詰らないように教員の勉強をしたいと思います。教員になることが今まで思っていたことよりも大変で難しいことだということがわかりました。
- ②「私を育てた部活動」の模擬授業に取り組みました。人それぞれができるできないがすごく出るなと思いました。とりあえず5分間とりあえず授業しておこうという考えをわかりやすく話し、5分を上手に活用すると何もなく模擬授業をするのとは大きな差がつくと感じました。私は後者になりたいです、実際体験できるなら頑張ります。

4-7 第7回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年6月1日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
 - ②道徳教育の計画、評価について講義
 - ③道徳教材「まじめ」を再度使って木村模範授業受講体験（見本の提示）
 - ④道徳教材「まじめ」を使った授業の略案作成（指導案の重要性に気づきを促す）
 - ⑤道徳教材「まじめ」の5分間授業体験（4人一組で順番に授業を行う）2回目
 - ⑥ふりかえり
 - ⑦ふりかえりノート提出
- (3) ふりかえりの抜粋
- ①実際に授業してみると、とても難しかったです。その理由は、準備して言葉をまとめるなどしていないと相手に届かないからだとわかりました。「何が言いたいのか？」ってなってしまうのですごく難しかったです。2人の人が最後にみんなの前で授業しましたが、自分の体験をもとに話していてとても納得しました。
 - ②今日は、5つのグループに分かれて授業をしました。最後に2人が全員の前で授業をしました。質問、自分の意見など、しっかり授業をすすめていました。今の自分ではうまくすすめていく自信がないので、自分の番が回ってきたときに、しっかりすすめられるよう頑張ります。

4-8 第8回道徳教育の指導法

- (1) 日時：2019年6月8日（土）3限（13:50～15:20）
- (2) 内容
- ①ふりかえりノート返却
 - ②道徳授業の流れについて講義
 - ③道徳教材「夕暮れの帰り道」の木村模範授業受講体験（見本の提示）
 - ④道徳教材「夕暮れの帰り道」授業の略案見本を提示し、学生が自分の略案作成
 - ⑤道徳教材「夕暮れの帰り道」の8分間授業体験（3人一組で授業を行う）
 - ⑥授業後のグループでのふりかえり
 - ⑦個人のふりかえり
 - ⑧ふりかえりノート提出
- (3) ふりかえりの抜粋
- ①今日は「夕暮れの帰り道」という教材に取り組みました。自分だったらおばあちゃんに声をかけないと思います。自分は内気なので声をかけることが恥ずかしいです。けれどもこの教材では、声をかけずに後悔してしまっているので、これからは積極的に声をかけて助けられることをお手伝いしようと思いました。
 - ②人に対してやさしく接するのは大切ですが、自分に余裕がないときは難しいと思いました。自分の気持ちが冷えているときはなかなか助けられないと感じています。そこで助けられる人は、本当にやさしい人だと思います。自分が助けを求めている立場になった時、相手の気持ちなんて考えられないと思います。普段から人にやさしく接することができるよう人間として成長する努力をしたいと思いました、道徳についてもっと学びたいです。

4-9 第9回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年6月15日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②授業の導入を考える（ジャンケンとペア・コミュニケーション等）
- ③道徳授業での発問の仕方について講義
- ④道徳教材「人とつながって」の木村模範授業受講体験（見本の提示）
- ⑤道徳教材「人とつながって」授業の略案見本を提示し、学生独自の略案作成
- ⑥道徳教材「人とつながって」の8分間授業体験（3人一組で授業を行う）
- ⑦授業後のグループでのふりかえり
- ⑧個人のふりかえり
- ⑨ふりかえりノート提出

(3) ふりかえりの抜粋

- ①人とつながることについて考えました。あいさつやお辞儀にも心を伝える形であることがわかりました。また、相手に思いを伝えるときの言葉や感情にはたくさんの思いやりがあることもわかりました。
- ②今日はプリント資料を使い、礼儀や思いやり、そして相手に寄り添う等、様々なことを学びました。中でも日本古来の武道「柔道」は、礼儀正しいものなので、すごいと思いました。自分ももっと礼儀正しい人間になりたいです。相手の気持ちを考え、発言に気をつけます。言葉一つで相手を傷つけてしまうことがあるので、気をつけたいです。

4-10 第10回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年6月22日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②教育実習から戻った学生の「教育実習体験」プレゼン
- ③道徳教材「命をいとおしんで」の木村模範授業受講体験（見本の提示）
- ④道徳教材「命をいとおしんで」授業の略案見本を提示し、学生独自の略案作成
- ⑤道徳教材「命をいとおしんで」の8分間授業体験（3人一組で授業を行う）
- ⑥授業後のグループでのふりかえり
- ⑦個人のふりかえり
- ⑧ふりかえりノート提出

(3) ふりかえりの抜粋

- ①今日は「命をいとおしんで」という資料で学びました。自分は中学生の頃、おじいちゃんが亡くなってしまいました。自分にとっておじいちゃんは、福岡と長崎と離れていましたが会いに行くと、いつもバンジョーを弾いてくれました。おじいちゃんはとても面白く、自分を可愛がってくれて、とても楽しかったです。今はおじいちゃんには会えないけれど、必ずどこかで見てくれていると思うので、自分は今からも頑張りたいと思います。
- ②今日の教材に感動しました。私のおじいちゃんも同じような状況だったので、思い出しました。このようなことが、もし、自分に起こった時も登場人物のように寄り添うことができるやさしい人間になって

欲しいです。「自分なら…」と考えられるってとても大切なことだと思いました。思いやりの心を育てるのはとても重要だと感じました。

4-1-1 第11回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年6月29日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②授業導入アクティビティ総復習
- ③教員としてのコミュニケーション・スキルの段階について
- ④ペア・コミュニケーション
- ⑤道徳授業の多様な指導方法について講義
- ⑥道徳教材「いじめ：笑い『落書き・ごみくず』」木村模範授業受講体験（見本の提示）
- ⑦道徳教材「いじめ：笑い『落書き・ごみくず』」の生徒の興味関心を高める導入後の略案作成
- ⑧道徳教材「いじめ：笑い『落書き・ごみくず』」の10分間授業体験（3人一組で順番に授業を行う）
- ⑨授業後のグループでのふりかえり
- ⑩個人のふりかえり
- ⑪ふりかえりノート提出

(3) ふりかえりの抜粋

①笑いにもいろいろあります。笑いは人を傷つける武器にもなりうるので、誤解されないようにしたいと思いました。教師はいじめに対して対応しなければなりません。努力していきたいです。笑うことは人を喜ばせることができますが、傷つけてしまうことも知っておく必要があります。

②今日はいじめの「笑い」について学びました。自分も中学生の時に、いじめられていたので、授業の中

で心に迫るものがありました。いじめはなくすことができないと思っているので、対策をしてくかが大切

だと思いました。

4-1-2 第12回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年7月6日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①ふりかえりノート返却
- ②ディベート入門
- ③指導案作成方法と検討について講義
- ④道徳教材「いじめ：笑い『自殺未遂』」木村模範授業受講体験（見本の提示）
- ⑤道徳教材「いじめ：笑い『自殺未遂』」の生徒の興味関心を高める導入を入れた略案作成
- ⑥道徳教材「いじめ：笑い『自殺未遂』」の10分間授業体験（3人一組で順番に授業を行う）
- ⑦授業後のグループでのふりかえり
- ⑧個人のふりかえり
- ⑨ふりかえりノート提出

(3) ふりかえりの抜粋

- ①前回に引き続き「いじめに」について学びました。このようなことが本当にあるのだと改めて思い、道徳の大切さを感じました。またテストについてもわかったので、勉強を進めていきたいと思います。
- ②いじめについては、人がいじめられている時に勇気を出していじめている人をとめたり、いじめられている人を助けて励ましてあげたりすることが大事だと感じました。またいじめに気づくことも重要だと思いました。

4-13 第13回道徳教育の指導法

(1) 日時：2019年7月13日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①他人に対して肯定的メッセージを出すことの意味とその体験（ペア・コミュニケーション等のアクティビティ）
- ②道徳教育の指導案の作成について講義後、指導案作成
- ③ペアになり友達について聞き、新聞「友達新聞作成」
- ④友達に読んでもらい、感想を共有
- ⑤本授業での授業体験教材から、各自が選んだ教材の指導案を作成し、提出

(3) ふりかえりの抜粋

- ①自分はこの授業を通じてコミュニケーション力や人前で話す力がついたと思います。自分は人見知りで、初対面の人と話すのが苦手でしたが、この授業の初めの方にした2人組での自己紹介をしたり、自分のことを話したりすることで少しずつ慣れてきました。コミュニケーション力がついたのはすごいと思いました。教員になったら生徒に教えていて大変だと感じることもありますが、頑張っていきたいと思いました。教員になったら生徒にちゃんとした知識を教えられるように頑張ります。
- ②この授業を受けることで、私のコミュニケーション力が向上したと思います。この授業では、まったく知らない人と自己紹介をしたり、模擬授業をしたりして人とかかわる機会が多く、人と積極的にかかわることが苦手な私としては、とても難しいことの連続でした。しかし、何度もかかわることで慣れてきて、伝え方や聞き方、コミュニケーションのとり方がよくなってきたと思いました。また、授業では道徳について学ぶと同時に、人の意見や考え方についても知ることができ、大変興味深いものでした。また4年の先輩方もゲストで来ていただき、自己紹介をしていただいたのは今でも覚えています。私も先輩のようにハキハキと自分の目標を話せるような教員となるために、これからも頑張ります。

4-14 第14回道徳教育の指導法

(1) 日時 2019年7月20日（土）3限（13:50～15:20）

(2) 内容

- ①「この授業ズバリ何点？」（結果は「5 考察」の欄に記載した）
 - 1) A4判白紙を配布して4等分に区切る。
 - 2) 左上に「このズバリ何点（100点満点）」を書く。
 - 3) 右上を上下に二等分して上半分に「授業の良かったことを1つ」を書く。下半分に「授業で残念だったことを1つ」書く。
 - 4) 左下に自己評価「自分は何点（100点満点）」を書く。

5) 右下に「来年度この授業を受講する後輩へのメッセージ」を書く。

②1人ずつ前に出て授業参加者全員に、A4判紙を示しながら1分間プレゼンテーション「この授業ズバリ何点？」を行う。

(3) ふりかえり

①1分間スピーチをしました。中学時代に毎朝していたのですが、大学生になり難しく感じてしまいます。自分の気持ちを多人数に訴えることは難しいです。今回は、紙に書いてわかりやすくしたのですが、相手に聞こえやすく伝わるような話し方ができませんでした。これからは、教師をめざす上で、相手と話すことは避けられないので、伝えられる人間になりたいです。

②今日はプレゼンテーションをしました。1分間という限られた時間の中、きちんと内容をまとめられていた人が多く、驚きました。自分はプレゼン中、声が震えてしまいうまく発表することができず、悔しい思いをしました。このような結果になってしまった原因として、自分のコミュニケーション力の不足がしているのが考えられます。私は積極的に自分の考えを意見として言えない性格で、人前に立つ機会も少なく、人との交流も避けてきました。今回のプレゼンテーションを通して変わらないといけないと思ったので、これからは積極的に人とかかわっていきたいと思います。

4-15 第15回道徳教育の指導法

小論文テスト「道徳教育を通じて生徒に何を教えたいか」を実施。

5. 考察

(1) まとめ

①自由記載について

ペア・コミュニケーションの課題を徐々に道徳科の授業導入に使える形で「応用的・発展的」に難易度を高めた結果、各時間の狙いを考えて書く者も増加し、着実な進歩が見られた。

②授業の総合評価「この授業ズバリ何点？」について

最終回に実施したアクティビティ「この授業ズバリ何点？」では、計68名が参加し、平均点(100点満点)84.6点、最高100点、最低60点であった。また後輩へのアドバイスは「先生になった時に必要なスキルが身につく授業です。」「授業ごとに自分や他人の成長が感じることができると思うので、しっかり取組める。」「とても楽しい授業なので休まず出席しましょう。」「この授業を受講すれば違った自分が見つかる。」

「一つ一つのアクティビティに意味がある。」「コミュニケーション能力が上がり、道徳教育の授業の進め方が理解できると思います。」等であった。

(2) 今後の課題

本授業開始時における最大の課題は、ペア・コミュニケーションの質を高めることであった。具体的には、互いに知っていることは、比較的簡単に相手に伝えることができるが、相手が知らないことを伝えることは苦手な者が多く、話す内容に自分の具体的な過去の体験を話せる者は少なかった。その課題を解決するため、過去の具体的な体験を簡潔に話す練習を多く取り入れた。その結果、まるで2人で同じ動画を見ているよ

うに説明できる者が増加した。この力が、教師として説明する力の育成に通じる、と考えている。しかし、学校現場で勤務する上では不十分で、今後さらに向上するよう指導しなければならない。

学生が社会人となった時、様々な機会に得た知識から推測することや、自分が経験しなかった課題に直面した際、知識を活用して課題を解決できる力が社会で生き抜くには不可欠であると考えている。また、教員は課題解決力等の「生きる力」を児童・生徒に教える責務を負う。本授業では、それらをどのように学生に理解させ、実践させることができるかを考え、授業を進めた。具体的には毎授業で様々なアクティビティを使って学生の気づきを促した。その結果は「5 (1) 考察の②授業の総合評価「この授業ズバリ何点？」の後輩へのアドバイスで、学生が「一つ一つのアクティビティに意味がある。」と述べ、その意味を理解した者がいたことは成果の表れだと思われる。今後も工夫を凝らしたアクティビティづくりに努めたい。

社会は多様で急激な変化を続け、その中で「協働」が求められている。その中で、常に教える者も教えられる者も「共に学び続ける姿勢」が重要である。今後も自己研鑽に努め、学生の「深い学び」となるよう自らの授業力等の向上に全力を尽くす決意である。

参考文献

文部科学省 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」平成 29 年 7 月.

